

現代と異なり、明かりがわずかしかなかった古代の夜は、人々が想像力を働かせる時間であり、人間以外の霊や鬼、神といった存在が活動する時間であった――。

本書は、現代人よりも昼夜の区別をはるかにはっきりともっていた古代人の感覚や生活を“時間”に焦点を当て、明らかにしようとした一冊である。『今昔物語集』『日本霊異記』『日本書紀』『万葉集』『古事記』といった古書の逸話を紹介しながら語られる、朝・昼・夕・夜に対する人々の心象、時刻制が王朝の政治や祭祀に用いられた記録など、時間まつわる記述を通じて、古代の人々が抱いていた世界観を垣間見ることができる。歴史ファンならずとも、新鮮な驚きを得られるに違いない。



『時間の古代史―霊鬼の夜、秩序の昼』
三宅和朗(文学部教授) 著
吉川弘文館/定価1785円(税込)

古代人が感じた、夜と昼の世界



慶應義塾に関連した出版物や
教職員の最新著書などを中心に、
本に関する情報をお届けします。

(ここでご紹介している本に関するお問い合わせ等は
各発行所又は書店にお願い致します。)

教職員執筆の最新より

- 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所、朝日新聞社ジャーナリスト学校編
『報道現場』 慶應義塾大学出版会 2,100円(平成22年7月)
- 三田文学編集部編
『三田文学名作選』 慶應義塾大学出版会 1,680円(平成22年7月)
- 小川原正道(法学部准教授) 著
『近代日本の戦争と宗教』 講談社 1,575円(平成22年6月)
- 速水融(大学名誉教授) 著
『汽車とレコード』 慶應義塾大学出版会 2,940円(平成22年7月)
- 小泉直樹(法務研究科教授) 著
『知的財産法入門』 岩波新書 756円(平成22年9月)
- エミー・E・ワーナー著 池田年穂(薬学部教授) 訳
『ユダヤ人を救え! デンマークからスウェーデンへ』 水声社 2,940円(平成22年11月)

(編著者の職名は発行時のもの)

購入に関するお問い合わせ・慶應義塾大学出版会
電話:03(3451)3584
Webサイト: <http://www.keio-up.co.jp/kup/150/>

近代日本の先導者として、独立自尊の大道を歩んだ福澤諭吉。本書は、福澤の全身像を、その生涯・著作・言葉・師弟・交友・家族・日常生活・旅行などの多彩な切り口から生き生きと表現している。今日まで積み重ねられた福澤研究の成果をふまえ、基礎的知識から今後の研究の手がかりとなる新情報までを満載。700項目に及ぶ「事典編」と、年譜やカラー図版を含む「資料編」から構成され、「調べる」と同時に「読み」「楽しむ」ことのできる事典である。幕末・明治の激動期を生きた福澤の姿は、現代の私たちの心に響く点多数あるだろう。

生誕175年・慶應義塾創立150年記念出版
『福澤諭吉事典』
定価14,700円(税込)



慶應義塾の二冊